



瀧本邸の庭園一面に広がるコケを観察した

「瀧本邸ファンクラブ」 集義園のコケ観察 椅子にペンキ塗り

頸城区百間町

川裕教授は庭一面に広がるコケについて、種類はハイゴケが中心だと説明。参加者はスマートフォンに取り付けるマクロレンズで拡大して観察し、感嘆の声を上げた。五百川教授は「元々、保倉川が近くを流れた湿り気がある土地で直射日光を遮る大きなスギが生え、庭園なので落ち葉が掃かれて光合成しやすい」と集義園がコケの生育に適している理由を解説した。

今回は6月27日に竹林を整備して竹灯籠を作る保全活動と、15代当主の瀧本宣弘さんに

頸城区百間町の瀧本邸で23日、「上越名家・瀧本邸ファンクラブ」2回目の活動が行われた。庭に設置する椅子のペンキ塗り作業と、庭園「集義園」の自然観察を行った。

よる花押作りの体験講座を行う。申し込み、問い合わせは磯田さん

ティア保全活動と体験講座を行っている。今回は約10人が参加。保全活動は事務局を務める上越の歴史的建造物と景観を守る会（磯田一裕代表）がもらい受けた椅子20脚を、庭園に溶け込む緑色に塗った。

体験講座の講師を務めた上越教育大の五百

（電090・9007・7380）へ。

